

海外安全対策情報 2024 年第 4 四半期（10～12 月）

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢および一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）社会情勢

- ・ 10 月 1 日のイランによるイスラエル攻撃を契機として、ブルガリア国内でもイスラム関連施設並びにイスラエル及びユダヤ教関連施設等に対する警戒が強化されました。
- ・ 11 月、ソフィア市内において大型商業施設等において若者らによる暴行事件が相次いで発生しました。増加する商業施設における組織的な万引きと、凶器を携帯して商業施設に出入りしたり、周辺をうろついたりする若者との関連が疑われ、当局が警戒を強化しました。

（2）治安情勢

ア 犯罪統計

2022 年、ブルガリアにおける犯罪認知件数は前年と比べて約 1 割増加しましたが、2023 年は前年比約 3%の微減となりました。しかしながら、人口 10 万人当たりの犯罪認知件数を比較すると、ブルガリアは日本の約 2.3 倍で、罪名別にみると、殺人は約 4.7 倍、強盗は約 12.7 倍と、凶悪犯罪について非常に高い水準にあります。

イ 不法移民統計

内務省の発表によると、2023 年中にブルガリア国内において身柄を拘束された不法移民は 18,887 人で、前年から約 0.08%増加しました。

ウ 交通事故統計

内務省の発表によると、2023 年のブルガリア国内の交通事故発生件数は 6,983 件（前年比+374 件）、死者数は 524 人（前年比-7 人）、負傷者数は 9,080 人（前年比+658 人）でした。

欧州委員会によると、2023 年のブルガリアの人口 100 万人当たりの交通事故死者数 82 人で、2022 年のルーマニアを抜いて、EU 内ワースト 1 位となりました。

（3）日本人被害犯罪の発生状況

この期間中、日本人が被害となった犯罪は認知していません。

2 テロ・爆弾事件発生状況

この期間中、テロ・爆弾事件は発生していません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

この期間中、日本人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまであまり見られません。